

# 令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立早稲田小学校

## ■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリル端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。</li> <li>・教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。</li> <li>・個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。</li> </ul>
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。</li> <li>・互いに認め励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。</li> <li>・保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。</li> </ul>

## ■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆圧が弱かったり正しい持ち方で持てなかったりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付けさせる。</li> <li>・ひらがなを筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。</li> <li>・数の合成、分解や文章問題では、絵や問題中の数字のみを見て考えようとすることがあるので、図を描いたり、半具体物を操作したりして意味を理解して考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかけた。</li> <li>② プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組ませたり、デジタルドリルを活用したりして学習した。</li> <li>③ 半具体物の操作を計画的に取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。また問題文を図に表す活動を取り入れた。</li> </ol>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆圧に気を付けて、整った線で、正しく文字を書く力を身に付けさせる。</li> <li>・ひらがなや漢字を筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。</li> <li>・言葉によって、漢字の読み方の使い分けができるように指導する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 文字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。</li> <li>② ドリルで、新出漢字を学習するときには、4つに分かれたマスを意識しながら、なぞったり書いたりするよう指導する。</li> <li>③ なぞり書きや空書きの活動で、筆順やとめ・はね・はらいを繰り返し指導する。</li> <li>④ 漢字ドリルで学習した後、デジタルドリルを活用した復習</li> </ol>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>数の合成、分解や文章問題では、絵や問題中の数字のみを見て考えようとするところがあるので、問題文の意味を理解して考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<p>を継続する。</p> <p>⑤ 半具体物の操作を取り入れたり、場面や操作を図に表したり、操作の仕方を言葉にしたりする。</p>
<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文では、句読点の付け忘れや「は・を・へ」の使い方等、正しく書くことに課題がある。</li> <li>論理立てて文章が書けるようになってきた。</li> <li>比較して考えたことを文章に書かせたことで、理由を話すことができるようになってきた。</li> <li>新宿区学力定着度調査の結果、国語では「知識・技能」が区平均と同等の正答率で、他の観点・領域は区平均を下回っている。算数の文章問題では、与えられた情報を整理して、問われていることに正しく解答できない児童が多い。</li> <li>九九などの基本的な計算はほとんどの児童が身に付いているが、まだ定着していない児童も少数いる。</li> <li>新宿区学力定着度調査の結果、算数では「知識・技能」「図形」「データの活用」が区平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番を意識した文章を書けるように指導する。</li> <li>主語と述語の関係や、話型や文型の指導をする。</li> <li>考えたことや思ったことを言葉で表現することへの苦手意識をなくせるようにする。</li> <li>問題文に書かれている情報を整理し、考える力を身に付けさせる。日常の中で書く文章では、2年生までに既習の漢字を概ね使えるよう、全ての教科において確認を行う。</li> <li>小数の計算、筆算等、既習事項の積み重ねが大切な学習が続くので、基本的な四則計算の定着を図る。</li> <li>「データ活用」については、1学期に学習した「棒グラフ」の単元で「表」や「グラフ」の活用法を指導した。定規の使い方がまだ定着していない児童がいるので、コンパスの使い方の学習をする2学期に併せて指導が必要である。</li> </ul>	<p>① 引き続き、短作文や日記を毎週書かせるようにする。</p> <p>② 継続してスピーチや簡単な質疑応答の練習を行う。ペアでの話し合い活動を取り入れ、話を聞く時のポイントを押さえたり、相手に伝わる話し方を知ったりする指導する。</p> <p>③ 文章問題で分かっていること、問われていることに下線を引いて確認する。また、2年生までの漢字の小テストを実施する。</p> <p>④ デジタルドリルや「ククハチジュウイチ」等のアプリを使用し、楽しみながら学習できる環境をつくる。九九の定着が遅れている児童に対して、タブレットを使って繰り返し練習に取り組みせ、引き続き定着を図るようにする。コンパスの使い方が身に付く様にコンパスの傾け方や回し方を動画や厚紙のワークシートを活用して定着をするように指導する。</p>

<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学びに向かう力等に関する意識調査」では、国語に関して「授業の内容が分かる」が3.5ポイントだったのに対し、「教科の学習はどのくらい得意か」という質問に対し、平均が2.8ポイントで他の教科と比較すると低かった。自分と比べて読んだり、考えたりすることに課題があることに加え、漢字や文章を書くことに対する苦手意識が影響していると考えられる。</li> <li>・ 相手の話を最後まで聞くことが苦手である。</li> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語では、全ての観点・領域で区平均を上回っている。特に「読むこと」は正答率が高い。「話すこと・聞くこと」は苦手である。</li> <li>・ 漢字小テストは意欲的に取り組むが、日常書く文章で既習の漢字を使わない児童が多い。</li> <li>・ 定規やコンパスの使い方がまだ定着していない児童がいる。</li> <li>・ 基本的な計算を苦手とする児童がいる。</li> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果、算数では、ほとんどの領域で区平均を上回っている。「データの活用」のみ、区平均を下回り、苦手さがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、文章の理解に加え、自分の経験と照らし合わせ、想像することができるよう指導する。</li> <li>・ 話をする内容の精査及び、話を集中して聞くための姿勢を指導する。</li> <li>・ 繰り返し練習させて、正確にかいたり、解いたりすることができるように指導する。</li> <li>・ データの活用においては国語や理科等の学習でも実践的に活用する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 登場人物の気持ちが表れている箇所に線を引かせ、どのような気持ちか具体的に想像させる。また、自分の体験や経験を想起させる。</li> <li>② 漢字のテストのやり直しや、再テストを繰り返し実施することで、できたという達成感をもたせ、技能を身に付けさせる。</li> <li>③ 毎週 150 字程度の日記を宿題にすることで、自分の考えを書く習慣を身に付ける。(既習の漢字を使用する。)</li> <li>④ 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、日常的に繰り返し声を掛ける。大事なことはメモを取って理解するよう指導する。</li> <li>⑤ 作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。丁寧に定規を使用する児童とそうでない児童との差があるため、教員が細目に指導をする。</li> <li>⑥ 九九の定着が遅れている児童に対して、デジタルドリルを使って繰り返し練習に取り組ませ、定着を図るようにする。</li> </ol>
----------------------	--	--	---

<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びに向かう力等に関する意識調査では、繰り返し漢字学習をしているという結果が出ているが、既習の漢字を日常や作文等で活用できていない。</li> <li>・ 自分の気持ちや考えを文章で書き表すことに課題がある。</li> <li>・ 物語を読み取ることに關し、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。</li> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語は、全ての観点・領域で区平均を上回っている。</li> <li>・ 繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。</li> <li>・ 基本的な四則計算で、簡単な間違いをしてしまう児童が多くいる。</li> <li>・ 新宿区学力調査の結果、算数「思考・判断・表現」の正答率が区平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。また、既習の漢字が活用できるかの確認テストを実施している。日常の中で書く文章では、4年生までに既習の漢字を概ね使えるよう、全ての教科において確認を行う。</li> <li>・ 経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。</li> <li>・ 登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。</li> <li>・ 繰り返し練習問題に取り組む等、計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。また、間違えた問題の振り返りをさせる必要がある。</li> <li>・ 基礎・基本に加え、思考力を高める問題にも継続して取り組ませる必要がある。間違えやすい問題を中心に練習を繰り返す行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日記や振り返りを書かせる中で、学習した漢字を活用することを指導する。また、4年生までの漢字の小テストを実施する。</li> <li>② 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。</li> <li>③ 読んだ文章の感想交流を行うことで、多様な感じ方や捉え方があることに気付かせて、想像につなげる。</li> <li>④ 基礎的な計算練習、思考力を高める練習問題を定期的に行う。間違いの直しも行わせる。</li> <li>⑤ 計算ドリルとデジタルドリルを併用し、基礎・基本の力を定着させる。</li> <li>⑥ 課題に取り組む際、既出の情報や問われていることを正しく認識して、問題に取り組ませる。</li> <li>⑦ 適応問題や単元の復習プリントに取り組み、基礎・基本の定着を図る。</li> </ol>
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見、具体と抽象、などを区別して読むことや、場に応じて文を書き分けることなど、意識できていないことが多く、全国学力調査の結果でも都の平均を下回っている。</li> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果、「書くこと」「読むこと」の領域を除いて、区平均を上回っ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見、具体と抽象の理解を深めながら、それらの叙述を基に要旨を捉え、書くことができるよう丁寧に指導する必要がある。</li> <li>・ 様々な教科で自分の考えをノートに書く時間を設け、丁寧に書く指導をする必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 文章を書く際は、読む相手を意識して書かせることで、場に応じた文章が書けるようにする。</li> <li>② 国語や社会、総合的な学習の時間の調べたことを文章でまとめる活動で、国語で学んだ筆者の論の展開の仕方などを想起するよう声掛けを</li> </ol>

	<p>ており、学習が定着していることが伺える。一方で、「書くこと」については区平均より大きく下回り、表現する力の定着に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分数、小数の計算において、計算の仕方は概ね理解しているが、小数点の位置や繰り上がり、約分などのケアレスミスが多い。</li> <li>・ 文章題の立式を間違えることが多く、何を計算で求めるかが理解できていない児童が多いことが全国学力調査・区学力調査においても確認できる。</li> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果、「データの活用」「図形」の領域は、区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。</li> <li>・ 全国学力調査の結果から、様々な領域の知識を複合的に活用して課題解決する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算の順序を意識させて、基礎・基本の力を大切に育てていく。</li> <li>・ 論理的に考える力を付けるために、文章を一つ一つ大切に読んで情報を整理する指導をする。</li> <li>・ 既習の様々な知識・技能を選択して課題解決する経験を増やす必要がある。</li> </ul>	<p>する。また、文型を提示して自分の考えの書き方について一斉に理解する時間を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 少人数指導の際、習熟度に応じた問題に取り組みさせる。</li> <li>④ 紙の計算ドリルやデジタルドリルで繰り返し計算問題の練習をしたり、個に応じた学習に取り組みせたりする。取り組んだ問題については、必ず見直しをさせ、必要に応じて検算させるようにする。</li> <li>⑤ 何を求めるかを意識させるために、「求めること」「分かっていること」に線を引きながら問題を読むように指導する。また、数直線や図を用いて、根拠をもって立式させる。</li> <li>⑥ 習熟度に応じて、様々な課題に取り組みさせる。</li> </ul>
--	---	---	--